

## 『シンポジウム「函館の未来に活かす地域遺産」 ～函館湾岸コンクリート物語～』を開催しました

寒地技術推進室

### 1. はじめに

技術者交流フォーラム事業は、地域において求められる技術開発や北海道総合開発計画の推進に資する技術開発等に関する情報交換、産学官の技術者交流及び連携等を図ることを目的とし、平成20年度から北海道各地で開催し、今回が32回目となります。

今回は、「函館の未来に活かす地域遺産～函館湾岸コンクリート物語～」と題し、函館湾岸地域で残存するコンクリート建造物の価値を多様な観点から捉え、地域における広域観光連携の拡大を図るとともに、地域再生に寄与することを目的に、平成31年1月31日に国土交通省北海道開発局函館開発建設部と共催で150名の参加者を得て開催しました。



写真-1 会場の様子

続いて、世界、日本の産業考古学活動において北海道では故富岡由夫氏（前函館産業遺産研究会会長）が「函館の産業遺産」という雑誌を作るなどの素晴らしい活動を行っていたこと、次に北海道の産業技術史と函館の産業遺産について函館は北海道開拓の先端を担っており、特に港湾技術、機械技術などの宝庫でありこれらの保存活動に関して関係した功労者の広井勇博士や岡崎文吉博士などの業績、函館周辺の具体的な歴史遺産の紹介等があり、最後にこれらの土木技術者の顕彰の必要性などを述べられました。



写真-2 北海道産業考古学会 山田大隆 会長



写真-3 地域景観ユニット 笠間聡研究員

### 2. 講演概要

#### 2. 1 基調講演

第I部では、まず、北海道産業考古学会の山田大隆会長から、「産業考古学からみた函館湾岸地域の価値と活用」と題する講演をいただきました。

最初に産業考古学、技術史についてイギリスの産業革命から現在に至る歴史についての説明の中で、産業考古学というものは、物の保存、統計調査等を記述し、その価値を一般国民、社会、行政等に訴えて、必要あれば保存していくものであり、函館市は産業遺産の宝庫であることを述べられました。

#### 2. 2 報告

次に、地域景観ユニットの笠間聡研究員から「土木遺産で地域をつなぐ・巡る「函館土木・産業遺産フットパス」について」と題して、地域景観ユニットの紹介と函館土木・産業遺産フットパスとの関わりの説明を行い、フットパスとは「自然型遊歩道」とも言えるものであり、平成22年から研究を始めた中での利用者アンケートでは建築遺産に比べ土木遺産は評価や認知度が低いことを紹介しました。土木遺産は基本的に眺

めることしかできないものが多いが、これらについて“視覚に訴える”、“文化的背景や歴史に思いを馳せてもらう”、“動きを見せる”、“体験する手段を提供する”など、ストーリーや背景の伝達のための案内を充実していくこと、どんな「眺める+α」を提供できるかが重要であることが説明されるとともに、その土地の地域、インフラや生活の歴史との関わりをじっくり体験して学び取ってもらうには、フットパスは非常によい仕掛けであることなどを報告しました。

### 3. パネルディスカッション

第Ⅱ部では「函館の未来に活かす地域遺産」と題し、北海道教育大学函館校の池ノ上真一准教授がコーディネーターとなり、公立ほこだて未来大学の鈴木昭二教授、函館湾岸価値創造プロジェクトチーム（GRHABIP）民間委員の古地パメラ氏、日本技術士会北海道本部道南技術士委員会の布村重樹代表、函館開発建設部の上田裕章次長、及び笠間研究員の5名がパネリストとして自己紹介を兼ねた事例や課題を紹介し、産業土木遺産、函館の湾岸コンクリート物語をどう展開していけばよいのか意見交換を行いました。

まず、鈴木教授からスマートフォンのカメラにAR技術を取り入れ、楽しみながら観光ルートを移動ができる「まち歩きツアー」の紹介をいただき、VR技術の観光への活用方法についてご意見をいただきました。

続いて、古地氏から、函館に似たフランスの港湾都市ル・アーヴル（世界遺産）を紹介並びに地域遺産の活用方法についてお話をいただきました。

次に、上田次長から、函館開発建設部の全体事業概要、大型クルーズ船岸壁整備状況の説明、港湾整備の歴史と日本3大夜景の維持や構造的な工夫事例、建設技術についてお話し、高校生などによる地域活動、商業的な地位で参加し高評価を受けている事例などを紹介しました。

続いて、笠間研究員からケヴィン・リンチの「都市のイメージ」を構成する5つの要素を用いた函館西部地区での取り組みについて紹介しました。

次に、布村代表からGRHABIPによる「コンクリートの聖地函館」の活動を報告いただき、函館湾岸地域の地域遺産の価値と歴史、その役割、今後の目標と取り組みについて紹介いただきました。

最後に池ノ上准教授より、現在も現役で使われている地域遺産をどう活用し、未来にどうやって活かして



写真-4 パネルディスカッションの様子

いくか、その価値のストーリー性、ドラマ性などをどう伝えるかが大事であり、活動を継続するにはボランティアにとどまらず、ビジネスとしての自立も必要であること、これから函館の町の中にある地域遺産、先祖から引き継いだ財産をどう現代につないでいくかが大きなテーマになっていくことを提起されました。



写真-5 パネルディスカッションの様子

終わりに山田会長から、総括として、地域遺産をそのまま風化させるのではなく、知恵を寄せ合って協議し、地域遺産を資産に変えるという取り組みが重要であり、これをまちづくりに全面的に展開している函館は、素晴らしいとのご意見が述べられました。

### 4. おわりに

今回の内容について参加者へアンケートを実施した結果、「大変参考になった」、「参考になった」と回答した方が96%を占め、「函館の土木産業遺産について知ることが出来た」、「今日のフォーラムに参加して地域遺産の貴重さを認識することができ勉強になりました」、「土木遺産の保存の重要性がわかった」などのご意見をいただきました。寒地土木研究所では、技術者交流フォーラム事業をはじめ今後も研究成果の普及や技術指導等を通じた地域貢献をしていきたいと考えています。

(文責：高木 典彦)